

羅生門

楠山正雄

青空文庫

頼光が大江山の鬼を退治してから、これはその後のお話です。

こんどは京都の羅生門に毎晩鬼が出るといううわさが立ちました。なんでも通りかかるものをつかまえては食べるといひようばん評判でした。

春の雨のしとしと降る晩のことでした。平井保昌と四天王が頼光のお屋敷に集まって、お酒を飲んでいました。みんないろいろおもしろい話をしていっているうちに、ふと保昌が、

「このごろ羅生門らしようもんに鬼おにが出るそうだ。」

といい出だしました。すると貞光さだみつも、

「おれもそんなうわさをきいた。」

といいました。

「それはほんとうか。」

と季武すえたけと公時きんときが目を丸まるくしました。綱つなは一人笑ひとりわらつて、

「ばかな。鬼おには大江山おおえやまで退治たいじてしまったばかりだ。そんなにい

くつも鬼おにが出てたまるものか。」

といいました。貞光さだみつはやつきとなつて、

「じゃあ、ほんとうに出たらどうする。」

とせめかけました。

「何なにひと、出たらおれが退治たいじてやるまでさ。」
 と綱つなはへいきな顔かおをしていいました。貞光さだみつと季武すえたけと公時きんととき
 はいっしょになって、

「よし、きさまこれからすぐ退治たいじに行け。」

といいました。

保ほ昌しょうはにやにや笑わらっていました。

綱つなは、その時とき

「よしよし、行くとも。」

というなり、さつそく鎧よろいを着きたり、兜かぶとをかぶったり、太刀たちをは
 いたり、ずんずん支度したくをはじめました。

綱つなも、外ほかの三人にんもみんなお酒さけに酔よっていました。

貞光さだみつは、その時ときあざ笑いながら、

「おい、ただ行つたつて、何かなにしようこがなければわからないぞ。」

といいました。綱つなは、

「じゃあ、これを羅生門らしやうもんの前にまえ立ててくる。」

といつて、大きな高札たかふだを抱かかえて、馬うまに乗のつて出かけました。

真まつ暗くらな中あめを雨あめにぬれながら、綱つなは羅生門らしやうもんの前にまえ来きました。

そして門もんの前まえを行もどつたり戻もどつたり、しばらくの間あいだ鬼おにの出でてくるの

を待まつていました。けれどいつまでたつても、鬼おにらしいものは出

て来きませんでした。綱つなはひとりわらで笑わらつて、

「はッは、鬼おにめ、こわくなつたかな。やはり鬼おにが出るといふのは

うそなのだろう。まあ、せつかく来たものだから、高札^{たかふだ}だけでも立てて帰ろう。」

と独り言^{ひとごと}をいいながら、門^{もん}の前^{まえ}に高札^{たかふだ}を立てました。

「やれやれ、つまらない目にあつた。」

綱^{つな}はぶつぶついいながら、そのまま帰^{かえ}つて行こうとしました。

あいにく雨^{あめ}が強^{つよ}くなって、風^{かぜ}が出てきました。真^まつ暗^{くら}な中で綱^{つな}は、しきりに馬^{うま}を急^{いそ}がせました。

ふと綱^{つな}の乗^のつていた馬^{うま}がぶるぶると身^みぶるいをしました。そのとたん、ずしんと何^{なに}か重^{おも}たいものが、後^{うし}ろの鞍^{くら}の上に落^おちたように思^{おも}いました。おやと思^{おも}つて、綱^{つな}がそつとふり向^むくと、なんだかざらざらした堅^{かた}いものが顔^{かお}にさわりました。それといっしょにい

きなり後ろうしから襟首えりくびをつとつかまれました。

「とうとう出た。」

綱つなはこう思おもつて、襟首えりくびを押おさえられたまま鬼おにの腕うでをつかまえて、

「ふん、きさまが羅生門らしようもんの鬼おにか。」

といいました。

「うん、おれは愛宕山あたごやまの茨木童子いばらぎどうじだ。毎晩まいばんここへ出て人をとるのだ。」

と、鬼おにはいうなり綱つなの襟首えりくびをもつて空そらの上に引ひき上げました。引ひき上げられながら綱つなはあわてず刀かたなを抜ぬいて、横よこなぐりに鬼おにの腕うでを切きりはらいました。その時ときくらやみの中で「ううん。」とう

なる声こえがしました。そのとたん綱つなはどさりと羅生門らしようもんの屋根やねの上に落おとされました。

その時ときはるかな黒雲くろくもの中で、
「腕うでは七日なのかの間預あけておくぞ。」

と鬼おにはいつて、逃にげて行きました。

綱つなはそろそろ屋根やねをおりて、その時ときまでもしつかり襟首えりくびをつかんでいた鬼おにの腕うでを引ひきはなして、それを持もつて、みんなのお酒さけを飲のんでいる所ところへ歸かえつて行きました。

歸かえつて来くると、みんなは待まちかまえていて、綱つなをとりまきました。そして明あかりの下あへ集あつまって鬼おにの腕うでをみしました。腕うでは赤あかさびのした鉄てつのように堅かたくつて、銀ぎんのような毛けが一いちめん面めんにはえていま

した。

みんなは綱つなの武勇ぶゆうをほめて、また新あたしくお酒さけを飲のみはじめまし
た。

二

「七日なのかの間腕あいだでを預あずけておくぞ。」

こういい残のこした鬼おにの言葉ことばを綱つなは忘わすれずにいました。それで万まん
一ち取り返かえされないう心ようじんに、綱つなは腕うでを丈夫じょうぶな箱はこの中なかに入れて、
門もんの外そとに、

「ものいみ」

と書いて張り出して、ぴったり門を閉めて、お経をよんでいました。

六日の間は何事もありませんでした。七日めの夕方のことと門をたたくものがありました。綱の家来が門のすきまからのぞいてみますと、白髪のおばあさんが、杖をついて、笠をもつて、門の外に立っていました。家来が、

「あなたはどなたです。」

と聞きますと、おばあさんは、

「綱のおばが、摂津の国渡辺からわざわざたずねて来ました。」
 といいました。

家来は 気の毒そうに、

「それはあいにくでございました。主人はものいみでございまして、今晚一晩立つまでは、どなたにもお会いになりません。」

といいました。するとおばあさんは悲しそうな声で、

「綱は小さい時母に別れたので、母親の代わりにわたしがあの子を育ててやったのです。それが今はえらい侍になったといつて、せつかく遠方からたずねて来ても会ってはくれない。このごろはめつきり年をとつて、こんどまた会おうといつても、それまで生きていられるかおぼつかない。ああ、ざんねんなことだ。」

といいながら、とぼとぼ帰つて行こうとしました。

綱は奥でおばあさんのいうことをすっかり聞いていました。聞い

ているうちに氣きの毒どくになって、どうしても門もんを開あけてやらすには
いられないような氣きがしました。それで自分じぶんが出て行いって、門もんを
開あけてやあって、

「よくいらつしやいました。」

といいって、奥おくへ通とおしました。

おばさんはうれしはそうに入はいって来きて、久ひさし振ぶりのあいさつがす
むと、

「さつき、ものいみで門もんをあけないといいったが、あれはどういい
わけなのだね。」

と聞ききました。

綱つなは鬼おにのことをくわしく話はなしました。おばさんはだんだんひざ

を乗り出しながら聞いていましたが、

「まあ、不思議なこともあるものだね。だがわたしの育てた子が
 そんなえらい手柄をしたかと思つと、わたしまでうれしいとおも
 うよ。ついでにその鬼の腕というのを見たいものだね。」

といいました。

綱は気の毒そうな顔をして、鬼のいい残した言葉があるので、
 今日七日のものいみが明けるまでは、だれにも見せることができ
 ないというわけを、ていねいにいつて断りました。するとおぼさ
 んは悲しそうな顔をして、

「まあ、よくよく縁がないのだね。なにしろ年を取つて生い先の
 短い体だからね。しかたがない、あきらめましょう。」

と、しおれ返つていいました。

その様子ようすをみると、綱つなはまたどうしても鬼おにの腕うでを出だして見みせなければならぬような気きになつて、

「ではせつかくだから、ちよつとお目めにかけましょう。」

といつて、箱はこをおばさんの前まえに持もち出だして、ふたをあけました。

「どれ、どれ。」

とおばさんはいつて、つとそばによりました。そしてしばらくじつと箱はこの中ちゆうをのぞき込こみながら、

「まあ、これが鬼おにの腕うでかい。」

といつて、いきなり左ひだりの腕うでを伸のばして、腕うでを取とりました。

綱つながはつと思おもう間まに、おばさんはみるみる鬼おにの姿すがたになつて、空そら

に飛とび上あがりました。そして綱つなが刀かたなを取とつて追おいかけるひまに、
破は風ふをけ破やぶつて、はるかくもの雲くもの中ちゆうに逃にげて行いきました。

綱つなはくやしがつて、いつまでも空そらをにらめつけていました。

でも鬼おにはそれなりもうふつつりと姿すがたを現あらわしませんでした。都みやこの

中ちゆうでも鬼おにのうわさはぱったり止やみました。

青空文庫情報

底本：「日本の英雄伝説」講談社学術文庫、講談社

1983（昭和58）年6月10日第1刷発行

※「家来は 気の毒そうに」の空白と、「おばあさん」「おばさん」の混用は底本のままです。

入力：鈴木厚司

校正：大久保ゆう

2003年9月29日作成

青空文庫作成ファイル：

このファイルは、インターネットの図書館、青空文庫 (<http://www>

W.aozora.gr.jp) で作られました。入力、校正、制作にあたったのは、ボランテイアの皆さんです。

羅生門

楠山正雄

2020年 7月12日 初版

奥付

発行 青空文庫

URL <http://www.aozora.gr.jp/>

E-Mail info@aozora.gr.jp

作成 青空ヘルパー 赤鬼@BFSU

URL <http://aozora.xisang.top/>

BiliBili <https://space.bilibili.com/10060483>

Special Thanks

青空文庫 威沙

青空文庫を全デバイスで楽しむ青空ヘルパー <http://aohelp.club/>

※この本の作成には文庫本作成ツール『威沙』を使用しています。

<http://tokimi.sylphid.jp/>